

6月号

School Aid Japan

スクール・エイド・ジャパン

Dream通信

2013. 6. No. 63



待ちに待った第6回運動会開催！ ～子どもたち主導で行う初めての取り組み～



アスファルトの上を全力疾走！



小さな子も懸命に綱を引っ張ります



袋跳びレースでは転ばないように、慎重に！

皆さん、こんにちは。日本ではもう梅雨の季節に入るとは思いますが、カンボジアでも、毎日ポツポツと雨が降り始める時期になってきました。

さて、今回のDream通信では、5月の連休中に行った運動会の様子について、そして裏農園での子どもたちのグループ農作業のその後についてお知らせします。

第6回運動会

毎年恒例の運動会ですが、去年は子どもたちの体調不良や園内での子どもたちの問題行動等が頻発し、楽しいイベントはお預けとしていました。そしてしばらく子どもたちには勉強や農作業に集中してもらい、頑張った後のご褒美として、5月14日、待ちに待った運動会を開催しました。

しかし、今回はいつもの運動会とは一味違います。それは、『子どもたち主導で行う』ということを目指していたところから。企画、準備、当日の運営、司会、審判、全てイベント委員長のロン・ヴィラーが主体で行いました。これは去年の10月の生徒会発足時から考えていたことで、いつも職員が考え子どもたちに行動させる、というトップダウンをやめ、子どもたちが自ら考え行動することを目標としていました。もちろん、最終確認や最終判断は園長が行います。企画書は何度も書き直しを行い、園長がよし、としたところで事務局長にも企画のプレゼンを行いました。事務局長からも「よく考えられている、偉い。」と言ってもらえ、運動会をする許可をいただきました。

当日は40℃を越える快晴の中、『①勉強以外の活躍の場を作ることで、勉強が苦手な子たちにも活躍の場を与える。②非日常の機会を作ることで、日々の生活にメリハリをつける。③チームで課題をこなすことで、子どもたちの連帯感を高める。』というイベント委員長が考案した企画意図の下、執り行われました。園長による開会宣言の後、各チーム代表者8人が選手宣誓を行い、正々堂々と競技に励むことを約束した上で競技を開始しました。第1種目は子ども全員による50m走です。4人ずつの子どもがアスファルトの上を裸足で全力疾走していき



女の子もこの時ばかりは思いっきり投げます！



優勝チームによる記念撮影



残渣と落ち葉、枯れ草を重ねていきます



除草した細かい雑草も干して堆肥に使います

ます。この種目のみ1位に個人賞があることもあり、熱戦が繰り広げられました。第2種目は綱引き、第3種目は大縄跳び、第4種目は袋跳びレース、第5種目は低学年による玉入れ、第6種目は高学年によるドッチボールと続き、最終第7種目のチーム対抗リレーで締めくくりました。全競技を終え、どのチームも満足そうな顔を浮かべ、お互いの頑張りを称えあいました。最後まで皆楽しく、正々堂々と競技に臨むことが出来ました。最後の閉会式では、優勝チームと50m走の個人賞、そして男女のMVPを発表し、対象の子どもたちに景品の授与式を行いました。他の子どもたちからは惜しめない拍手が送られ、頑張った皆のために職員からお菓子のプレゼントを贈りました。

今回の運動会では、男子はサイハー、女子はスレイキアンがそれぞれMVPを獲得し、普段は勉強面であり活躍のできていない子どもが活躍する場面が見受けられました。毎日頑張っている子どもたちに、こうした楽しいイベントを催すことで、また明日から頑張る活力になって欲しい、と思います。

裏農園のグループ農作業～その後～

グループ農作業は現在、肥料・堆肥の確保・作成が課題になっています。広大な2haの土地全てを使い野菜を育てるには、多くの肥料・堆肥が必要になります。そこで、カンボジア人職員やいつも懇意にしてくださっているクラコー市場の方、事務局局長などに教えていただき、堆肥作りをスタートさせました。今までは、買ってきた牛糞をそのまま撒いて肥料としていましたが、それではただのばら撒きになってしまい、たくさん使わなければなりません。そこで、どのような肥料・堆肥が有効かつお金をかけずに出来るのか、聞き込みを行いました。市場の方に教えてもらったのは、トゥントウリアンカエと呼ばれる緑肥です。この緑肥は、カンボジアではよく使われる緑肥で、雨季になると至る所に生えている、とのことでした。偶然孤児院の裏農園にも少量が自生していたため、根を残して全て刈り取り、細かく刻んでから畝を作った畑に鋤きこみました。また、蟻塚の土を畑の土と混ぜ込み、栄養を送り込みました。さらに、以前までは廃棄してしまっていた残渣と落ち葉、枯れ草を利用して有機の堆肥を作り始めました。農園の一角に、板と釘を使用して堆肥置き場を作り、園内で刈り取った草を乾燥させた枯れ草を敷き詰め、その上に園内で集めた落ち葉、残渣の順番に積み重ねていきます。それを数ヶ月間繰り返すことによって、体に優しい栄養分たっぷりの堆肥が完成します。

子どもたちが将来、自分で農業をやることになっても、自分たちで肥料から作ることが出来れば、より多くの利益を得ることが出来ます。自立のための知恵をつけて、将来自分の力で生活していくことが出来るようになって欲しい、と願います。